



茶式

二

ヲ多
785
2





茶

式

門ヲ刻
番 783
卷 2

修
之

入
之

全

目錄

- | | |
|-----------|----------|
| 一爐正午茶湯之事 | 一風爐茶湯之事 |
| 一夜嘯茶湯之事 | 一濃茶引續薄茶事 |
| 一中立益之茶之湯事 | 一花所望之事 |
| 一炭所望之事 | 一曉茶湯之事 |
| 一跡見茶湯之事 | 一飯後茶湯事 |
| 一朝茶湯之事 | 一客一亭茶湯事 |
| 一雪之茶湯之事 | 一菓子茶湯之事 |



春又も白待合に辺斗風情よく流しを政次郎と新らり穴
入並角一申くり中門を新客前より新く水も張金あり

申中より湯を流す所は湯と水とむめ合せの水新く
張金より石を並に中門かゝりて近し府持出てを新り 申門の外に有る方張

空屋に際し別に水桶出は方張を流す
用事調ふ事 空屋の床掛物とけ

意とん一申くりこれとけ燵中も火おと足緒ひき外新く流す

隙子あり客の足ゆる新く意とん流すをれと掛り新く

侍合纏子も新く新く意とん流すを客前より礼儀忌用

帛巾着と一

一敷日お客も合新く政次郎かゝり腕腹未仕と老婦子に行

お掛り政次郎は新く流す一と新く流すは政次郎と流す

案内して外に纏けり意とんお客は侍て掃ゆと政次郎

政次郎は纏掛り有る多府多系粉多魚子燵中と並張と並

見立て申すことと並と流すの因坐と女上客も人なりの造り者
先づて各府未敷

上座より白の道きと
上客より白の道きと 腰と申す申すことと並と侍申すことと並と

六もふ春と一と並入時に格好の申す未仕し者政次郎と申す
けを新り水おと

一客掃ゆる案内のハ先後子居取坐女持新谷と揚下火

袍能連一戻して物物は山並蓋を掛て蓋を先んて流す

炭斗を入府掃指申す女と春と掃掛物と並と見申す

張りの巾履と申す申す中門中より申すハ大口の茶籠も水と入

持出も申す水代也湯と申す時
申す

大口

客と近しゆり小申りて正にたれぬけきよきり口よりまゝ
草履えりぬき立ちし重ぬきり口よりまゝすねぬけき蓋切し
重箱もまゝに立ち揚りしむるに居る

一客多き程も吞留と見えお客一礼ありて系座より
方へまゝせし重便るお洞へ便りぬきよきり口よりまゝすねぬけき

内におぼりて重便るお洞へ便りぬきよきり口よりまゝすねぬけき
襦袢お代りけよきり口よりまゝすねぬけき

下ナ物と大ぬき刀掛。重箱もまゝに同じ。重箱もまゝに同じ。下ナ物と
おぼりて。小重便るお洞へ便りぬきよきり口よりまゝすねぬけき

右へ通ぬき立ちて末座系座とすねぬけき初に海田系座とす
手燵木片付き

初に重便るお洞へ便りぬきよきり口よりまゝすねぬけき
おぼりて。小重便るお洞へ便りぬきよきり口よりまゝすねぬけき

道幸とハ

一上客坐敷へ上り耐草履もよきり口よりまゝすねぬけき
床前て手持床へ前掛物と見え炬燵前へ竹笠と見え飾付前
見て座敷へ挨拶敷敷なす。足斗お座敷へ客付来。お座敷へ便りぬき
次に客上客道具も、行時分と考へ座敷へ上り床の下飾付前
と見え申前へ如し右へ通ぬき座敷へ入り末座へ立ちぬけき
掛物へおぼりぬきよきり口よりまゝすねぬけき
壁際へ横よきり道幸有。坐敷へ入りハ鏡の向て飾付とす。

道幸とす。耐草履もよきり口よりまゝすねぬけき
おぼりて。小重便るお洞へ便りぬきよきり口よりまゝすねぬけき

一重なり客入浴を考へ浴次へ通り。浴をこぼり入水神。水と浴りあり

猪子口へ次へ写取のハ彦掃をたき、板方より襖と鴨子敷居際
の出入り由熱れぬへ、客より熱統して上客一人は挨拶統
て上客掛とのと答へ筆者木下つぬへ、

一亭より音く後皆出ぬて坐と立炭と具持出猪子口へ合儀
揚炭と由儀事法、

一客亭より谷と揚く炉辺と掃時分お客次統して炉辺へ客
炭と見送て未仕より先へ御座、一亭より香合を蓋し上客

香合も亭より出さへ、よて座へ由次統して見てまひ、
一亭より香合出、直炭と具持出、九人客より香合と見て未仕

上客、持の上客亭より、彦掃は直附へ亭より出、下客向て直炭

一亭より間、掃込持出、乃て香合、猪子口へお送掃、帚ハ猪子口へ

直炭中へ谷へ蓋切客へ返、香合を入猪子口へ、
香合と九人客が礼
ね、直炭を入又客が
統より、向て見合

一上客亭より香合を、出の時香合へ挨拶して品作直へ尋ね、

一亭お着して猪子口へ皆掃、猪子口へ襖と鴨子敷居
音

一亭猪子口へ入、猪子口へ直炭、猪子口へお送掃、掃て後膳と持出、

上座より音く、猪を猪子口へ送、挨拶して襖と鴨子敷居へ入り、
通ひ口へお送掃、乃て菓子口へ通ふ、猪子掃り、次へ
板へ掃ふ、及通ふ、共用の、時を通ふ、若持て出、戻りて入り、

一客通、由出、下客亭より、挨拶、上客あま、挨拶有て答へたなり

一亭之些ありし相菓子梳り香物俵中酒を抽出能時よりして
飯次より通盃小抄子と載抽出上客へ前へ通盃下をりし
食次へ蓋を振へ力抄子合次へ入又ふりして茶と向へ合次へ
とら目抄子柄あり方ある振る力申し出通盃汁とあり
上あり汁れ今猪子と並又出て二客へ汁と之をとり入上客へ
汁抽出末坐へ汁と替へ入二客へ汁抽出て帰食次へ明るを
抽出とあり汁と抽出とありて何人より曰る猪子替換とあり
替へ並抽出て見りり小梳りひもまの隙へ入して声

相初献へ盃代意不載せたり小抄右間端抽出あり二献へ破りて

盃と別へ一引破り時あり 意大出へ客よりして酒と次あり
未坐へ明るを未座へ向し懸下酒通間端抽出あり
早皿菓子梳り抽出ありおあり上座抽出 梳り後へ引巻へ
又合次へ汁と替へて何て客振換次へ替へて中酒抽出
上客未坐へ抽出並抽出ありお付て後中へ猪子と入

通い者用む時初猪と並抽出中酒初献式へ吸也
二献目間端抽出菓子と並抽出ありし通い

一客方後へ二献目酒出する時中座よりして茶申振換ありし初ら廻り
しる合次へ介香物俵中酒通間端未坐へある申しこれ猪子能取
一亭之猪子にお付して世るたをを掃除へ茶を振と又合吸也
湯と並載抽出ありし時梳り替へ吸也抽出あり
ぬる梳り替へるあり

一亭に柄取りて熱飲し、附上官花を拵授し、茶を令作未成し
茶点出して是時上官花を立て我前へお進ませ、一礼有る未成と
熱飲し、柄取盆小帛と茶葉と載せ、飲出せ。

亭の中席中帛流出するは方、口におと又或は口は口の中へ
出るとして後にて茶盤は流し置飲時口は口におとすは口の中へ
返す時えの……

一柄取盆上官飲酒の時分は二客三客、次礼して上官を茶盤成
廻すと付上官座とて後茶盤と次、後と同敷付とて後、清
い……時上官花あり、次、者飲酒……前……して又次、出……
後……め…… 上官……茶盤……清……時上官座……
茶と飲切茶盤……上官、柄行。
茶盤……上官……中……
何……茶盤……

上官茶盤を清くし、物……清……行……礼……て又……
茶……香……と……上官……准……
茶盤……帛……未成……者上官……茶盤……
柄……亭……返……
未成……て……上官……柄……前……上官……清……茶盤……
持……亭……返……新……茶盤……作……清……後……亭……
柄……茶盤……下……上官……各一礼……茶盤……酒……下……上官……
……先……は……由……柄……亭……
……亭……水……蓋……上官……茶……柄……
一亭……種……法……是……道……具……水……柄……
水……柄……茶……

風爐之茶湯 但爐は焚く事と他

一 風爐より吹去り朝を正午也時常空なる所ありて
二月より九月迄三月の時候暖き下風爐より焚く事
夜は焚く事少し

一 一方の極風呂に釜別業門方へ付足袋用きして水取
く夜は焚く事少し風呂より足袋用きして水取
とくく一
地流又古風は湯のくけりし事と風好く下とけり
ありふ家持はふ時不用なる他流はいとけり夏は湯は
在る通ずる時常給お又焚く事切去る可也一
方有るは此の流
此の流を焚く事少し

一 暑き時時分拓ちめて府前早くすく所より前へなる登りけ
るはありてあり業門とけり火かき一を空の掛整て

初ふ直に炭より事所一通換取済て風好と感 風呂のありて一
給より方此流

結より通直流て進火きて直に炭と出に炭行て後直に炭と直に
炭直して後直に炭と出 炭より出に炭と出に炭行て後直に炭と直に
方よりふ時不用なる他流は湯のくけりし事と風好く下とけり

一中空の底に水は山に歩湯を流すにせし行湯や流業のあり事
爐と遠いわけ別記より有る極意は略す

夜吐く事 但昼はかきし事少し

一 東の流湯より水は流す所と稀と

一二客の葉出の跡の上客より葉の盛りと乞ふ

一三時亭の濃葉入ふけの葉枝と水指とを右の方の葉入右の
九我前と並葉入たるも右の濃葉入の跡飾丹葉枝と並附居前
の紅葉方上面に存て濃葉入る如法杖を客の出の口盛と添
出

一上客のたきて引中庭の傍に庭をへ二客葉置区以上客
例の道具の時に葉置られて一新のものを見て返り
葉置入の時を
葉置一新に乞

一亭の道具の時に柄を右附の柄抄蓋をとりて右の葉入たりと建
柄の柄の葉入客のふの時葉置られたる時葉置と一新柄入
又葉入も客にて四客一新に返りては柄の葉入と柄抄を

たかしくと種を入葉入今もさなれたる時

一客葉入たる時柄道者も時葉入と水指と別返り
柄の四品一新に返りては

申立札

一大風雨雷鳴中庭難く附の葉の出の時を候ては右中庭接
してたを粉を乞ふ

一客のたけて床花と水指付居て亭の紅葉糖菓を右

一亭の葉置の時に中庭具掃付未仕迫りては以客たを乞ふ
柄の切の

一客の客のたけては右の葉入と水指付居ては

花初巻之事

一客の花初巻をせんと思ふ後、一付花入の口を固く封じて花

二種の花 一種は客の別巻の花を指し、
二種は客の別巻の花を指し、 紐で花の口を固く封じて

便宜に別巻を附定して客入の口を出て上客の對し、

四客の花入の口を固く封じて 花初巻の口を固く封じて、
花初巻の口を固く封じて、

一客の花入の口を固く封じて 客の上客と申して別巻の花
初巻の花を指して、 花と入るに後

取ておとし、 おとし、おとし、
おとし、おとし、 客の花と入るに後

扱ひ

一客の花入の口を固く封じて、

一客の花入の口を固く封じて、

一通り花入の口を固く封じて、

一通り花入の口を固く封じて、

一通り花入の口を固く封じて、

一通り花入の口を固く封じて、

花初巻之事

一客の花初巻の口を固く封じて、

一通り花入の口を固く封じて、

一通り花入の口を固く封じて、



近いふは自燭と不用合燈は諸本燈籠杯と用とて一通は自燭

とて一通は自燭

一客は夜入にものふとてさう扱込不定りもの扱ふかゝせし
支那の定法もなるは通例にもの遣ひてとて

一客入て例を通扱扱有くぬを粉魚自燭木山一葉茶とてとて

耳酒に先々取出し之後茶と点る自燭と不用一葉茶とてとて

持込座とれ炭火山の壺谷と給ふ持込湯と控へぬを改湯谷

持込け壺炭火自燭一客は海と吐して翁ゆいけと持へけりる壺に

おいて炭と一客は海と吐して翁ゆいけと持へけりる壺に

とる一隣子とて料理持込座へ又自燭引け時言早にれ持

自口に壺を壺也一客合てけりる壺



実上チ有座敷の志直の地とて実上チ有座敷の志直の地とて
きりて時言早にれ持
とる一隣子とて料理持込座へ又自燭引け時言早にれ持

申立前座へぬと持てお座へ一客中を隣子ゆいけとて持込座へ

自知一客は早にれ持てお座へ一客中を隣子ゆいけとて持込座へ

一客は早にれ持てお座へ一客中を隣子ゆいけとて持込座へ

海見の茶湯

一客は湯不取り亭迄海見に口出さるる一客は湯不取り亭迄海見に口出さるる

新座へ新座へ信り客とて新座へ新座へ信り客とて新座へ新座へ信り客とて

一客は湯不取り亭迄海見に口出さるる一客は湯不取り亭迄海見に口出さるる

一貴人扱付く海見或は海見道果とて出茶湯は客より

新中一してのり新ごうを家とて言ふは、結合しては不吉御来御来
のりも今一のり

一 新中一してのり新ごうを家とて言ふは、結合しては不吉御来御来
のりも今一のり

一 新中一してのり新ごうを家とて言ふは、結合しては不吉御来御来
のりも今一のり

一 新中一してのり新ごうを家とて言ふは、結合しては不吉御来御来
のりも今一のり

飯後茶湯 菓子茶湯

一 飯後茶湯 菓子茶湯
一 菓子茶湯 菓子茶湯
一 菓子茶湯 菓子茶湯

朝の茶湯 朝の茶湯

一 朝の茶湯 朝の茶湯
一 朝の茶湯 朝の茶湯
一 朝の茶湯 朝の茶湯



